

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

地域の方から褒めていただきました

1月14日(日)に本校で会議がありました。その会議には西中をはじめ、校区内の幼稚園、小学校の保護者と教員、地域の方、教育委員会関係者等、たくさんの方が来校されました。会が終わると、校門付近で参加者の皆様をお見送りしていき、地域の方がお一人私のところへ近づいてこられました。その方は地域で朝の登校時に小学生の見守りをされている方ようで、登校する西中生もその方の前をたくさん通るようです。「どの生徒さんもどの生徒さん、みんな私に生徒さんの方から『おはようございます』と挨拶をしてくれるんです。すごく気持ちがいいです」と褒めていただきました。また、「年末に地域で実施している『警戒パトロール』に西中生が10名以上参加してくれました。いままでこんなことはありませんでした」と喜んでおられました。地域に支えられ、地域のシンボルとしての学校を目指す西中学校だけに、これらのお褒めの言葉はたいへんうれしく思いました。また、生徒たちを誇りに思う瞬間でした。

そのような話をしている最中に、校門付近にとめてあった自転車が10数台ほど将棋倒しになりました。部活動で集まっていた女子卓球部の生徒たちはそれを見て、誰に言われることもなく、さっと動いて瞬く間にすべての自転車を立てました。また、部活動で校門を入ってくるどの生徒も帰られる会の参加者に「こんにちば」「こんにとは」と挨拶をしていました。本当に「すごいな」と思いました。褒めていただいた後だけに、倍うれしさがこみ上げてきました。これからも、地域の方に愛される西中生になってほしいものです。

～大人になった今でも忘れられない 生きる力をくれた「先生のことば」～

今の時期、進路を決める子どもたちは大人からたくさんの励ましの言葉をもらっていたと実感するようです。特に先生から。大人になってその意味がわかった人。ずうっとその言葉を胸に抱いて頑張っている人。様々です。みなさんはどんな言葉に励まされたのでしょうか。インターネットから「生きる力をくれた先生の言葉」を拾ってみました。一部紹介します。みなさんも「座右の銘」になるような言葉を拾ってみてください。

【進路のとき】

①「春は自らの心の中にある」

卒業生の中でただ一人私だけが進学せずに就職。その時に先生から特別にいただいた言葉です。私はこの言葉を胸に29年間同じ仕事を続けられました。

②「あなたは、あなたの人生の脚本家です」

将来の夢が決まらず進路に悩んでいた私に先生がくれた言葉です。ドラマのストーリーを自分で決めることができるなんて最高の舞台ですよ……といわれ、好きな道に進むことができました。

③「30年先のじぶんから、今の自分をみてみなさい」
就職試験で苦しんでいたことを理由に卒論をまじめに取り組んでいなかったとき、先生がカツを入れてくれました。いまではとても感謝しています。

④「愛で導き、涙で叱れ」

「教師になりたい」と決意し担任の先生に話したとき、「私と同じ道を進むなら……」とこのことばをいただきました。ありがとうございます！

⑤「夢は大空に、足元は大地に」

「夢を大きく描くのはいいことだけど、地に足をつけて夢をかなえるための努力を決して忘れるな」と担任の先生にいわれました。このことばを思い出すたび、身が引き締まります。

⑥「結果に原因あり、原因に我あり」

仕事に就いたものの迷っているとき、このことばで励ましてくれました。そのおかげで自分を振り返ることができました。

⑦「自分の選択を正しいものに変えていけるのは自分だけ」

大学進学で悩んでいたとき「こっちならこうなっちゃう、あっちならああなっちゃう」と不安ばかり口にかけている私にかけてくれたことばです。何かを選択した後の努力こそが大事なんだと教えられました。

⑧「深刻にならずに、真剣に」

学生時代、就職指導で先生からいただいたことばです。それ以来いつもこのことばを心にとめて、ここぞというときには声を出して頑張っています。

【受験のとき】

①「お前は持っている才能だけで苦労せずにやっているけどそれで満足か？」

高校受験を控えた頃、すでに志望校に合格できそうな状況ではあったんですが、先生のこの一言で努力することを覚えました。

②「夢を叶えるための失敗なら大いにしなさい」

高校受験に失敗し教室で泣きじゃくる私に担任の先生が下さった言葉です。ほかにも節目節目で心に残ることばをたくさん貰いました。

③「努力は素質を上回り、気力は実力を越える」

大学受験を控えていて自分に自信がなくなりそうになったとき、先生からいただいたこのことばで頑張ることができました。

④「風邪を引くのは気がゆるんでいる証拠」

大学受験を控え、不安を抱えていた時に先生からきっぱりといわれました。非情なようですが、愛情あつての厳しい言葉だったと今でも懐かしく思い出します。

⑤「弱音を吐いて皆を巻き込むな」「苦しい時こそ、気配りを忘れるな」

高校受験のとき、グループ班長の私が班のノートに「もう駄目」と泣き言を書いたら、担任の先生からこの厳しい一言。「弱音を吐くな」はいまも私のポリシーです。

今の時期の3年生には、自己肯定感を高めるような、自信がつくような、そして、気合いを入れられるような言葉をたくさんかけられたらいいですね。